

村長と語り合う タウンミーティング

20231223 対話内容

代表的な質問

村長からの回答

世代の違いで子育てに対する支援が大きく違うこと（今の支援の手厚さ）に気づいた。子供の成長に伴う出費に対して公助（ランドセル、運動着など）はできないか？

国の児童手当の増額や、東京都が独自に取り組み始めた手当の上乗せなどがあり、個人的にはこういうやり方はよいと思う。現物支給や現金支給が選べると良いと考えている。給食費や水道料金などを「いただかないことにする」やり方だと振込手数料はかからないし、効果があると思う。給食費の免除は、私立校や中高一貫校などに同様の支援をするためには「給付」が必要になる。どういう形がよいのか考えていく。

支援する側の負担軽減（共助する人の公的支援）も考えたい。先生の報酬など。

住居の負担支援など、保育士の処遇改善を村として取り組んでいる。人材確保の視点もある。先生の負担軽減として、部活動の地域移行を進めている。生活・生徒指導で先生に過剰な負担がかからないように、福祉的なサポートや家庭支援を考えている。子供の放課後の居場所づくりも考えている。

代表的な質問

村長からの回答

周囲からなかなかサポートを受けられない母親向けの支援について。食事面の支援として宅配お弁当を検討してはどうか？

産後サポートとして助産師の支援がある。また、保健センターの保健師が、中学校区ごとに「マイ保健師」として支援はしている。国の給付制度も増えているが、孤独・孤立した環境で子育てしている人に何とかアプローチして、支援ができるようにしていきたい。高齢者向けには宅配お弁当など、細かい支援があるが、子育て世代の母親向けにはできていない。訪問指導等を行っていくなかで探っていきたい。周りの協力が得られにくい方については、引き続き現場の声を聴きながら考えていきたい。

子育て支援として（身近な支援が）何があるのか分からない（届かない、届きにくい）。SNS等での発信に力を入れては？

やっているつもりではあるが届いていない現状がある。ライフステージごとにどのような施策があるのかを知らせるべきだと認識している。文章だけでなく、視覚的に、この時期にはこの支援が受けられると一目でわかるような、皆さんが情報を得ているツールに適したような情報の出し方の必要性を感じており、工夫していきたい。

代表的な質問

若手の意見として、中高生向けの遊ぶ場がない。若手の意見を吸い上げるなどの取り組みをしてみてもいいか？

村長からの回答

中高生に対するアプローチが薄いと感じている。高校生が寄れる場所、サロンのような気軽に立ち寄り過ごせる場所。そこで意見を吸い上げ、何が必要なのかを考えていくような取り組みを検討している。新しい公共施設を作るというよりは既存の場所を活かしていくような取り組みを考えている。

代表的な質問

村長からの回答

人口減少について。とても魅力的な村なのになぜ人口が減少するのか？村の情報が伝わっていないのではないか？

人口減少は全国的な流れだが、子どもが増えないと人口は減る一方だが、「減り方」を緩やかにしないとイケない。生活に精一杯で、その前の結婚にもたどり着けない。結婚年齢も上がっている。家庭に「夢」や「希望」を見出せないのでは。若いときは都会での生活を満喫したいと思うのは当然。都会で頑張れない人や、都会生活に疲れた人が戻ってくる。人生の選択の悩みは大きいのだろう。一方で、東海村出身者が、世界で活躍するのも大切なこと。いろいろな想いを受け止められる村でありたい。

情報の発信について。自然に入ってくるような取り組みはできないか？

「視覚的な情報出しを」と（先ほど）言ったが、「マッチしていない」「フィットしていない」というのは感じている。よその自治体もいろいろ工夫しているところだ。「誰に届けるのか」「誰に見てもらいたいのか」をしっかりと考え、若い世代ならSNS、高齢者なら広報紙など、対象に合わせてツールを選ぶことが大切だ。

代表的な質問

「若い子の遊ぶ場所が欲しい」という意見があったが、若い世代が遊ぶ場所は、どんなところ？

→参加者より：高校生は水戸に行っている印象。洋服やゲームセンター、映画館など！？

→参加者より：「歴史と未来の交流館」はどうだろう？ぜひ活用してほしい。

村長からの回答

アミューズメント系施設がないのは実感しているが、人口規模がまだ小さいので、誘致は難しい。他方、デジタル・オンラインで様々なものが生み出されていて、他にはないような時代を先取りしているものは、売りになるだろう。研究者が多いという利点も活かしたい。

代表的な質問

原発について。15年前に移住してきて講演会を聞いた。それが反対集会のような場で心地悪かった。静かな環境の中で話し合うことが大切なのでは？ それぞれの立場で、いろいろな主張はあれど、専門家の話を聞くなどしながら対話を深めたい。

村長からの回答

議論ではなく対話の場が必要だと実感している。もとは自分ごと化会議だったが、このタウンミーティングもそのような位置づけ。対話をもっと浸透させていく必要性を感じている。リアル、オンライン、いろいろな手段で場を作っていきたい。皆さんの声を出せるだけ多く聴きたい。単に〇×ではなく、そこに込めた思いや、普段はなかなか言いにくいことを話し合える場を大切に、これからも取り組んでいきたい。

代表的な質問

村長からの回答

情報発信について。保育園や学童について、休園の情報等、預ける側と、預かる側で、お互いほしい情報が得られずギャップがある。

関係する人にだけ適切に届くような情報伝達の仕方があると思う。仕組みの改善を検討していく。全体的な行事予定等は事前に全体周知できるようにしていきたい。

農業をやってみたいという人がいるが、どうやったらできるのか分からない。住んでいるだけで手軽にストレスなく情報が入ってくるようにしたい。

農業支援センターで相談に乗っているが、そこに行かないと情報がないという実態もある。いつでも、どこでもとなると、村はホームページに頼っていて、知りたい人がキーワード検索していかないとたどり着けないのが現状。ホームページについては、改修時期でもあり、検索機能をもう少しよくしていきたい。村の公式ラインもあるが、情報が多すぎるという声もある。情報を掲載して終わりではなく、確認することについても、先進自治体の仕組みなどを取り入れて考えていきたい。

代表的な質問

村長からの回答

このような場を作ってもらえて良かった。
村民の総意に基づいて原発再稼働を判断したいという話があったが、稼働させないことを前提にいろいろなことを考えてほしい。

東海第2発電所の再稼働についてだが、一つのご意見として受け止めている。

東海村は生活レベルも低くないと思う。他方、奨学金で勉強しているような人もいる。保育料の無償化も考えてほしい。

奨学金については、貸与型だが一部返還免除する制度を検討している。保育料については、現在、第2子までの無償化を検討している。保育所の整備を進めながら将来的には第1子にも適用しようと考えている。